(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I. その人らしい暮らしを支える

(1) ケアマネジメント

(2) 日々の支援

(3) 生活環境づくり

(4) 健康を維持するための支援

II. 家族との支え合い

III. 地域との支え合い

IV. より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
 ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
 ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	令和 6 年 7 月 23 日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 4名	(依頼数) 9名
地域アンケート回答数	8名	

※事業所記入

事業所番号	3873900470
事業所名 (ユニット名)	グループホーム 虹の森
記入者(管理者) 氏名	奥藤 恵子
自己評価作成日	令和 6 年 7 月 1 日

(別表第1の2)

<p>【事業所理念】 親しみと信頼関係構築を最重点目標とし、家庭的雰囲気の中にマンネリ化と画一的な介助にならないよう、日々新たな気持ちと献身的態度に努め、愛と真心と思いやりの心でトータルサポートいたします。</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】 ・近くのスーパーへ買い物に行ったり、地域の行事への参加が可能な時には参加や見学をおこなったり、ドライブをしたり気分転換を行うような支援に心がけた。 ・地域包括支援センター主催のネットワーク会議にも可能な限り参加する様心がけている。 ・職員の研修はスタッフ会議や会社の会議でおこない学習する機会を設けている。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】 法人として、地域で複数の障害福祉サービスや介護保険サービスを展開しており、「虹の森」は、法人内で最初にできた施設・事業所である。3年前に新築移転したバリアフリー構造の建物は、きれいな状態が保たれ、歩行者や車いすを使用する利用者も安心安全に生活を送ることができる。管理者と職員は、「9名の定員と少ないため、利用者一人ひとりの表情や様子がよく観察でき、家庭で生活しているような雰囲気づくりに努めている」「利用者の思いを尊重し、楽しんで生活を送ってもらえるように支援したい」などと考え、利用者の思いに沿った日々の支援が行われている。また、職員の希望に応じて、希望する勤務シフトに対応したり、法人内の別の事業所への異動の対応をしたり、有給休暇の取得を促すなど、働きやすい職場環境づくりにも努めている。さらに、地域の「地域ネットワーク会議」に参画し、関係機関と良好な関係を築いている。感染対策もあり、地域との交流等は減少した状態が続いているが、地域行事に可能な範囲で参加協力をした。運営推進会議に多くの地域住民に参加してもらったりするなど、地域に根付いた事業所となっている。</p>
---	---	--

評価結果表

【実施状況の評価】

◎よくできている ○ほぼできている △時々できている ×ほとんどできていない

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I.その人らしい暮らしを支える									
(1)ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	◎	普段の関りの中の言動を見逃さないように努め、カンファレンス等により職員間で話し合いを持ち共有している。	○	/	○	日々の生活の中で、職員は利用者から希望や意向を聞き、把握に努めている。中には、希望を伝えることが難しい利用者もおり、職員は表情や様子を観察して思いをくみ取るよう努めるとともに、家族の来訪時や電話連絡時にも意見や要望を聞くようにしている。
b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	日頃の状態を把握しながら、出来る限り本人の立場になって何が必要かを検討している。	/	/	/			
c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	○	家族も遠方の人もあるが、電話や郵便で可能な限り話し合っているが、十分でなかったと思われる時もある。	/	/	/			
d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	○	ケアプラン作成時や更新時のサービス担当者会議で共有している。	/	/	/			
e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	施設や職員の都合でケアをしないようにしている。	/	/	/			
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	△	家族から暮らしぶりや、こだわりを確認しているが、家族以外からは出来ていない。	/	/	○	入居時に、可能な限り自宅等を訪問して、職員は利用者や家族と面談を行い、生活歴や生活環境などの聞き取りをしている。また、同法人の有料老人ホームから転居して入居に繋がる利用者もおり、同法人の施設・事業所の関係者からも情報収集をしている。さらに、病院から入居する場合には、退院時のカンファレンスに計画作成担当者等が参加して、サマリーなどの情報をもらうとともに、病歴などの少しでも多くの情報収集に努めている。把握した情報は、アセスメントシートに記録を残すとともに、ミーティングなどを活用して職員間で話し合い、情報を共有している。
b	利用者一人ひとりの心身の状態(身体面・精神面)や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	○	アセスメントや基本情報で確認している。	/	/	/			
c	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握に努めている。(生活環境・職員のかかわり等)	○	介護記録や申し送り時に把握に努めている。	/	/	/			
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	サービス担当者会議で本人や職員で検討している。	/	/	◎	月1回ミーティングを兼ねて担当者会議を開催し、入居時や介護計画の更新時に介護支援専門員がまとめた情報をもとに、職員から意見やアイデアを出し合いながら話し合いをしている。介護計画の更新時には、事前に利用者や家族から意見を聞くほか、受診時に主治医から指示やアドバイスをもらい、利用者の視点に立ち、課題やより良いサービスを再度検討している。
b	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題の把握に努めている。	○	職員間では多職種連携での話し合いを行っている。家族では電話でのやり取りが主になる。	/	/	/			
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	出きるだけ自宅での生活様式に近づけている。	/	/	/	事前に、利用者から意見を聞くほか、電話連絡や便りを利用して、家族から意見や要望の聞き取りをしている。また、月1回の往診後に、主治医と管理者が話し合う機会を設けて、医療的な指示やアドバイスをもらうことができている。把握した情報をもとに、担当者会議の中で職員から活発な意見やアイデアを出し合いながら話し合い、計画作成担当者を中心に、介護計画を作成している。また、利用者や家族、医師等から出された意見を反映した計画の作成に努めている。職員から、化粧が好きな利用者に対して、「100円ショップと一緒に化粧品を買いに行ってみようか」という意見や提案が出され、意見を計画に反映し、実践した事例もある。
b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	よりよく暮らすための課題や日々のケア方法について職員間及び家族でアイデアを出している。	○	/	/	◎		
c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	△	ADL低下の為、あまりできていない。	/	/	/			
d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	△	地域の人たちの協力体制はあまりとれていない。	/	/	/			

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	ミーティング等で職員間で共有している。	/	/	/	介護計画の内容は、ミーティングの中で、計画作成担当者が口頭で説明し、職員に周知を図っている。また、利用者ごとの担当職員が目標チェック表を作成し、毎月作成する一人ひとりの利用者の目標に対して、達成状況の確認をしている。サービスの実施記録には、24時間の利用者の様子のほか、1日の流れが分かるように、職員は具体的な記録を残すことができる。また、排泄に関することは赤字で、医療的なことは青字で記録するなど、他の職員が見ても、分かりやすく記録を残せるように工夫をしている。訪問調査日には、「今日のおやつはいいよ、おいしい。便が出そうだけど、一人やないと恥ずかしいけん後で来て」など、利用者の発した言葉や表情などの詳細な記録を確認することもできた。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを個別具体的に記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	半年に一度ケアプランの見直しをしている。	/	/	/	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	○	半年に一度ケアプランの見直しをしている。	/	/	/	介護計画は、6か月に1回見直しをしている。新たな要望や変化が見られない場合にも、利用者ごとの担当職員が、目標チェック表等を活用して、毎月全ての利用者の現状や目標の達成状況の確認をしている。また、要介護認定の区分変更のほか、入退院時などの状態変化が生じた場合には、計画作成担当者が医師などの関係者から指示や意見を受けて状態を把握するとともに、職員や家族に相談を行うなど、現状に即した介護計画の作成をしている。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	○	毎月のミーティングなどで確認している。	/	/	/	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	変化が生じた場合はサービス担当者会議を開催して対応する。	/	/	/	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	定期的にミーティングやサービス担当者会議を開催している。	/	/	/	月1回ミーティングを開催し、利用者の現状確認や課題解決等に向けた話し合いをしている。緊急案件のある場合には、その日の出勤職員や管理者で話し合い、迅速に対応するとともに、話し合われた内容は、朝夕の申し送りを活用して、職員間で共有をしている。また、ミーティングや会議に参加できなかった職員には、議事録や申し送りノートなどを閲覧してもらい、確認後に押印を残すことで、情報共有に繋げている。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	少人数なので和気あいあいと建設的な意見交換に心がけている。	/	/	/	
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫するとともに、参加できない職員にも内容を正確に共有している。	◎	なるべく多くの職員が参加できるように調整している。	/	/	/	
8	確実な申し送り、情報伝達		日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	◎	利用者の様子や家族とのやり取り等日々申し送りノートやカレンダーなどに記入し、タイムリーに伝達できるようにしている。	○	/	◎	申し送りノートなどを活用して、朝夕の申し送りを実施し、職員間で情報を共有している。出勤時に、家族連絡ノートや申し送りノート、業務日誌などを確認し、確認後に職員は押印する仕組みづくりができています。また、記録等の確認の押印状況を最終的に管理者が確認を行い、押印のない職員には再確認を促すなど、確実な情報共有に繋げている。さらに、行事計画や受診予定などを事業所内に掲示のカレンダーに記載して周知するとともに、職員が再確認できるようにしている。
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にしたい支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	◎	出来ることは可能な限りリクエストに応えている。	/	/	/	入浴後に着る服やレクリエーションの種類など、生活の様々な場面で、職員は声をかけ、利用者が選択や自己決定ができるよう支援している。洗濯物たたみや食事の後片づけなどを手伝ってもらった後には、必ず職員から「ありがとうございました」と感謝の言葉を伝え、利用者の笑顔が見られるなど、生活に喜びや張り合いを感じてもらうような支援にも努めている。調査調査日にも、職員から利用者へ「ありがとう」と声をかける様子が見られ、「いいよ」と笑顔で返答する利用者の様子が見られた。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくらせている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	◎	服を選んでもらったり、好きなレクリエーションを選んでもらっている。	/	/	/	
		c	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にしたい支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	◎	必ず利用者にお伺いを立てている。	/	/	/	
		d	利用者の活き活きした言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	◎	利用者様が明るくなり、やる気が出るような声掛けに心がけている。	/	/	/	
		e	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	◎	利用者の特性に合わせた声掛けに心がけ対応している。	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重したい関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切にしたい言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。(人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮、目立たずさりげない言葉がけや対応等)	◎	職場のミーティング時やサービス担当者会議等で学習会をしている。	◎	○	○	事業所内で実施する勉強会や毎月の法人全体の会議の中で、人権や尊厳などを学び、職員は意識した言動を心がけた支援に努めている。以前に、家族から利用者へ職員が発した言葉に対して、意見や要望などが寄せられたこともあり、法人全体の研修のテーマに「利用者の人格の尊重や敬意を払う」などの内容を取り上げて開催し、職員に再認識してもらうとともに、注意喚起を行い、再発防止に努めている。また、職員は居室を利用者のプライバシーのある空間と認識し、入室する際に、ノックや声かけをしてから入室するとともに、不在時にも、事前にリビングなどにいる利用者へ声をかけ、了承を得てから入室することができている。
		b	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	◎	トイレ誘導、入浴介助時は特にプライバシーに配慮した介助に心がけている。また、自立されている方は見守りに専念している。	/	/	/	
		c	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	◎	居室に入るときは必ずノックをして入室している。	/	/	/	
		d	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	◎	ミーティング等で職員間で共有し、情報が漏洩しないように心がけている。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けってもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	◎	日常生活の中で会話を通して、利用者様の豊富な知識や経験を教わっている。	/	/	/	職員は利用者の行動などの状態や性格のほか、利用者同士の関係性を把握し、言い合いなどのトラブルが発生しそうな場合には、早期に職員が間に入って話を聞くなどの対応をしている。時には、歩行練習をしている利用者が、車いすの移動の妨げとなることもあり、急に車いすを止めて、「邪魔やねえ」と発する他の利用者もあり、職員が注意を払いながら対応している。また、世話好きな利用者が他の利用者を気遣い、励ましの声かけや介助を手伝おうとする微笑ましい場面が見られるなど、職員は事故に繋がらないように見守りしている。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	◎	お互いが助け合うことで良好な関係が作れる様に努めている。	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)。	◎	利用者様同士がトラブルになりそうな状況になった時は、職員が間に入り問題解決に当たっている。	/	/	/	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	◎	トラブルが起きそうなときには、事前に会話などで対応している。	/	/	/	
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係や馴染みの場所などについて把握している。	△	入所前に家族などに聞き取りを行っているが、まだ不十分なところがあると思われる。	/	/	/	
		b	知人や友人等が気軽に訪れたり、本人が知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていたりなど、これまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	△	入所前に家族などに聞き取りを行っているが、まだ不十分なところがあると思われる。	/	/	/	
13	日常的な外出支援	a	利用者(および意思表示が困難な場合はご家族)の希望に沿って、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない)(※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	◎	利用者様個別にその日の朝外出希望を確認している。また、可能な限り、利用者様の意向に沿うようにしている。	○	△	○	現在の夏の猛暑もあり、日中の外出は減少をしているが、朝夕の涼しい時間帯に、玄関前のベンチに座って外気浴をしたり、プランターの水やりをしたりするなど、少しでも利用者が屋外に出て、気分転換を図れるよう支援している。また、隣町まで買い物に出かけた際に、利用者と一緒にドライブを楽しむこともある。さらに、天気の良い日などの日中に屋外に出れない場合には、全ての利用者にフロアに出て過ごしてもらい、窓から見える景色のほか、窓を開けて外気を感じてもらうなどの支援も行われている。感染対策が続き、地域住民が日常的な外出支援の様子を見る機会が少なかったこともあり、地域アンケートの結果から外出支援に対して、地域住民から十分な理解が得られていないことが伺えるため、運営推進会議等を活用して、屋外での過ごし方や外出支援を報告するなど、理解が得られるような周知方法を職員間で検討していくことも期待される。
		b	家族、地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	×	現在は行っていない。	/	/	/	
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	月一回のミーティング時や認知症の講習会を開催して、利用者様の対応に当たっている。	/	/	/	義歯の着脱や排泄時のズボンの上げ下ろし、居室の布団の準備など、日々の生活の中で、できることは自分でしてもらい、職員はできない部分を一緒にするなど、手や口を出しすぎない見守り支援にも努めている。また、歩行器を使用して歩行訓練をもらったり、食事前にラジオ体操をもらったりするなど、利用者の心身機能の維持が図れるような支援をしている。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	月一回のミーティング時や認知症の講習会を開催して、利用者様の対応に当たっている。	/	/	/	
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	ご自分で行っているときには見守りを行い、可能な限り自主的に行ってもらっている。	○	/	○	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	一人一人出来ることややりたいことを日常生活の中から見つけ出すようにしている。	/	/	/	洗濯物たたみや下膳、台拭き、カーテンの開閉など、職員は利用者のできることや得意な役割を担ってもらえるよう支援している。中には、率先してレクリエーションの準備などの役割や出番を担ってくれる利用者もいる。また、日めくりカレンダーをめくることを日課のようにしている利用者もいる。さらに、好きな化粧を継続してもらえるよう支援するなど、職員は少しでも利用者が楽しみのある生活を送れるよう支援している。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、ホームの内外で一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	一人一人出来ることややりたいことを日常生活の中から見つけ出すようにしている。	○	○	◎	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	お化粧をされる利用者様もおられ、その方にはご希望の化粧品を提供している。また、ご自分で整容が出来ない方は、職員がお手伝いしている。	/	/	/	起床時に、自分で着る服を選び、化粧をしておしゃれを楽しむなど、身だしなみを整えることのできる利用者もいる。男性利用者には、電気シェイバーを渡し、自分でできることをしてもらい、職員は剃り残しのサポートをするなど、本人の好みやこだわりを大切にしたい支援を心がけている。また、整容の乱れや食べこぼしなどの汚れが見られた場合には、居室に移動して着替えてもらったり、さりげなく職員が声をかけてフォローしたりするなどの対応をしている。中には、意向を聞くことが難しい利用者もおり、家族に相談して好みの服装等を用意してもらうなど、本人らしさが保てるような支援にも努めている。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みで整えられるように支援している。	○	これまで持ち慣れた物や洋服をお持ち頂き使用している。また、好みの物を購入できるような買い物もしている。	/	/	/	
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	△	自己決定がしにくい方には、職員が本人の気持ちを汲み取り、決めている。	/	/	/	
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせたその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	季節に合わせた服装が出来る様に支援している。	/	/	/	
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にしたりさりげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	食事や入浴、排泄などには気を付けている。	◎	○	○	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	○	家族の協力を得て望む店に行かされている。	/	/	/	
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	△	その方の好みを家族に確認して支援している。	/	/	○	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	△	各自、介護福祉の学習やOJT等で理解している。	/	/	/	事業所では配食サービスを利用し、業者から届けられた食材の湯煎や盛り付けをするとともに、事業所内で炊飯や汁物等の調理を行い、利用者に食事を提供している。利用者には、食器の後片付けなどを一緒に手伝ってもらっている。季節の行事食のほか、誕生日のおやつの際には、職員が手作りする物も提供し、介護記録に「今日のおやつはいいよ。おいしい」などの記録が残されるなど、利用者から好評を得ている。時には、イベントの際に、たこ焼きを焼くこともあり、利用者に喜ばれている。利用者の嚥下能力や状態に応じて、ムース食や刻み、トロミなどの食べやすい食事形態に対応することもできている。アレルギーの有無は、事前に把握して業者に伝え、代替品を用意してもらうこともできている。茶碗や箸などの食器類は、入居時に利用者に使い慣れた物を持参してもらうほか、利用者の状況に応じて、使いやすい物を使用している。感染対策やリビングのスペースが狭いこともあり、食事の際に、職員は見守りやサポートを行い、利用者や別々の時間帯に食事を摂るようになっている。また、利用者から好みのメニューを聞いたり、食事の量や味付けを確認したりするなど、職員間で食事内容などを話し合うこともある。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	○	食事は外部発注の為、温める作業しかないが、後片付け等をして頂いている。	/	/	○	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	△	食事は外部発注の為、温める作業しかないが、後片付け等をして頂いている。	/	/	/	
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○	家族、本人に聞いて確認している。また、日常生活の中で観察して把握するようにしている。	/	/	/	
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔なつかしいもの等を取り入れている。	△	外部発注であるが、元々軟菜中心メニューとなっており、肉、魚、野菜等も食べやすくなっている。きざみ、極きざみ、ペーストと一人一人に合わせた形態で提供している。	/	/	○	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせた調理方法としつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等)	△	外部発注であるが、元々軟菜中心メニューとなっており、肉、魚、野菜等も食べやすくなっている。きざみ、極きざみ、ペーストと一人一人に合わせた形態で提供している。	/	/	/	
		g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	○	入所時には持参して頂くようにしており、その方に合うものを使用している。	/	/	○	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	○	利用者と一緒に食べることはないが、見守りでサポートしている。	/	/	○	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	△	その人に合わせた方法でおいしく味わえるよう声掛けしながら調理している。また、キッチンが対面式になっており音やにおいが感じられる。	○	/	○	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べれる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	○	1人1人に合った量の提供をしており、水分摂取量も必要な時には記録に残し毎日確認している。	/	/	/	
		k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	○	水分摂取量は必要な方は毎日チェックしている。トロミをつけたり、好みや苦手な物の把握に務めている。また、必要に応じ補食を購入している。	/	/	/	
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	○	外部発注であるが、その内容の意見などを言える機会がある。	/	/	○	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	◎	調理道具は消毒したり乾燥機にかけている。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	○	職員は講習を受けているので知っている。	/	/	/	毎食後に、利用者は歯磨きなどの口腔ケアを実施し、必要に応じて、職員は見守りやサポートをしている。自分で歯磨きができる利用者を含めて、職員が目視で口腔内の様子を観察するなど、全ての利用者の口腔内の状況を把握できるよう努めている。アセスメントシートには、義歯の有無のみの記載に留まっているため、その他の口腔内の情報を定期的に記録に残していくなどの工夫を行い、情報を活かした支援に繋げていくことも期待される。また、夜間に義歯を預かり、洗浄剤に浸けるなど、清潔保持に努めている。さらに、口腔内の異常が見られた場合には、早期の歯科診療に繋げている。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	○	毎日口腔ケア時にチェックしたり本人に確認している。	/	/	○	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	△	必要な方はアドバイスを受けている。	/	/	/	
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	○	本人が行っている方は磨き残しがないかをチェックし、週一回ボリドントで消毒している。	/	/	/	
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック、歯科医の受診等)	○	自分で出来る方は見守りをしている。できない方は介助に行っている。	/	/	○	
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	◎	職員は講習を受けて学んでいる。	/	/	/	事業所内にある2か所のトイレを使用して、基本的に利用者がトイレで排泄できるよう支援している。また、排泄状況を記録に残して、一人ひとりの利用者の排泄パターンを把握し、職員は声かけやトイレ誘導などの支援をしている。職員がこまめな声かけをすることにより、中には、日中に布パンツを履いて過ごすことができる利用者もいる。さらに、失敗の不安から、夜間に紙おむつを使用している利用者もいる。加えて、利用者の排泄状況に応じて、紙パンツやパッドなどの適切な排泄用品の使用を費用面を考慮に入れながら職員間で話し合い、家族に相談の上で変更や使用をしている。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	◎	職員は講習を受けて学んでいる。	/	/	/	
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	◎	介護記録に記録して、把握に努めている。	/	/	/	
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々の状態にあった支援を行っている。	◎	出来るだけトイレでの排泄を基本として支援している。	◎	/	◎	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	◎	随時、話し合いを行ったり、かかりつけ医に相談しながら取り組んでいる。	/	/	/	
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	◎	排泄パターンを介護記録で確認したり、状態観察を行っている。	/	/	/	
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	○	本人や家族と話し合い支援している。	/	/	/	
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	○	利用者の状態を確認して選択している。	/	/	/	
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	○	水分摂取量確保のため、本人の好みの飲み物を飲んで頂き、散歩や日光浴、入浴時のマッサージを行っている。	/	/	/	
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)。	○	週三回を基本として曜日や時間帯はだいたい決まっている。長さや温度は本人の希望を聞きながら行っている。	◎	/	○	月・水・金曜の週3回、午前9時から11時の時間帯に利用者が入浴できるよう支援している。利用者の希望のほか、その日の体調や気分に合わせて、入浴の長さや順番、時間帯、外出前後の入浴など、柔軟な入浴支援に努めている。中には、入浴を拒む利用者もあり、無理強いすることなく、声かけなどの工夫を行い、時間帯や曜日を変更して入浴してもらうなどの対応をしている。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分で入浴できるよう支援している。	○	見守りを行い本人がリラックスできるように支援している。	/	/	/	
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	◎	見守りを行い、自分で洗える所や出来る事はしてもらっている。	/	/	/	
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ちよく入浴できるよう工夫している。	◎	入浴前に気分よく入ってもらえるように声掛けしている。拒否が強い時は別の日に変更している。	/	/	/	
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	◎	バイタル測定を行い、健康状態の把握に努め、入浴後も水分補給してもらったり様子観察している。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	◎	毎日の介護記録をもとに睡眠パターンの把握に努めている。	/	/	/	事業所には、現在眠剤等を服用している1名の利用者があるものの、なるべく服薬に頼らず、昼寝の時間を短くしたり、散歩や外気浴を取り入れて、日中の活動量を増やしたりするなどの工夫を行い、夜間に利用者が良眠できるよう支援している。不眠が続く利用者には、健康面を考慮して主治医に相談し、指示やアドバイスをもらうこともできている。中には、夜間に寝つけない利用者もあり、職員と一緒に眠くなるまで会話をしながら過ごしてもらうなどの対応をしている。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	◎	日中、散歩やレクリエーションを行ったりして、夜眠れるようにしている。	/	/	/	
		c	利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	△	夜眠れないなどの問題が発生したときは医師に相談するようにしている。	/	/	○	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場が個別に取れるよう取り組んでいる。	○	本人の訴えを基に休んでもらったり、ご自分で判断出来ない方は状態をみて対応している。	/	/	/	
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	×	手紙を書いたり、電話をされる利用者はおられない。	/	/	/	
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	×	家族に連絡を取るときは、職員が対応している。	/	/	/	
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	×	利用者様本人が自由に電話をする環境ではない。	/	/	/	
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	本人や家族に知らせている。	/	/	/	
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	△	電話や面会時などに協力の依頼を行っている。	/	/	/	
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	○	月一回のミーティング時などに話すことがある。	/	/	/	
		b	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	○	出来る方は行っているが全員ではない。	/	/	/	
		c	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」など一方向的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	○	家族と相談して対応している。	/	/	/	
		d	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	適時行っている。	/	/	/	
		e	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	◎	その時々状況の変化に伴い、随時話し合い、相談等している。	/	/	/	
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々ニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	◎	随時、その時の状況に応じて話し合い対応している。	○	/	◎	家族の希望に応じて、お墓参りなどの外出をしたり、買い物支援をしたりするなど、利用者や家族から出された要望には、可能な範囲で柔軟に対応している。
(3)生活環境づくり									
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に入ることができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	○	玄関の前は庭なので、花を植えて親しみが持てるような雰囲気づくりに努めている。	◎	○	○	玄関前にはベンチが置かれ、外気浴をするなど、利用者や来訪者はゆっくりと休憩することができるようになっている。また、玄関周辺には花が植えられ、明るく親しみやすい雰囲気が感じられる。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気を感じており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものしか置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。)	◎	季節ごとに飾りつけをしたり、利用者とともに作品を作ったりしている。	◎	○	◎	広い玄関スペースには、地域の中学生と一緒に作成した七夕などの季節の飾り付けが行われ、利用者や来訪者は季節を感じることができる。共有スペースは、毎日換気や清掃が行われ、整理整頓が行き届くなど、快適な空間となっている。また、リビングの中央にはダイニングテーブルのほか、テレビやソファも置かれるなど、利用者が思い思いの場所でゆったりとくつろぐことができるようになっている。さらに、リビングの壁には、利用者の写真やレクリエーションで作成した作品が飾られ、家庭的な雰囲気も感じられる。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	◎	毎日、掃除や空気の入替えを行っている。			◎	
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	◎	毎日、掃除や空気の入替えをおこなったり、窓から外を眺め季節を感じられるようにしている。			◎	
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	◎	ソファで過ごしてもらったり、テーブルや居室で過ごすなどして頂いている。				
27	居心地良く過ごせる居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	自宅ですべてのタンス等の備品を持ち込んで頂いている。	◎		○	居室の入口の扉は3枚引き戸で、車いすの利用者も入室しやすくなっている。居室にはエアコンのみが備え付けられ、利用者は使い慣れた寝具やタンスなどを持ち込んで使用をしている。中には、タンスの上に櫛や鏡が置かれている居室もあり、訪問調査日には自分で身だしなみを整える利用者の様子を見ることができた。また、家族写真を飾るなど、利用者が居心地の良く過ごせるような空間づくりも行われている。
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、混乱や失敗を防ぎ、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	◎	室内はバリアフリーになっていて、手すりや標識を設置している。			○	事業所内はバリアフリー構造で、各所に手すりが設置され、動線も確保されるなど、歩行器や車いすを使用する利用者も、安心安全に生活を送ることができるようになっている。また、トイレの使用時には照明が自動で点灯され、洗面台も広くて、車いすの利用者もゆったりと使用できる構造となっている。さらに、リビングには絵本や週刊誌が置かれ、利用者がいつでも手に取って読めるようにしている。
		b	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ぼうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	◎	よく塗り絵をされるため、色鉛筆や鉛筆削りを目の届くところに置いており、利用者が好きな時に利用できるようにしている。また、レクリエーション時には雑誌や新聞、絵本等も用意して、自由に楽しんで頂いている。				
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)を理解し、日中は玄関に鍵をかけなくても済むように工夫している。(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)	◎	身体拘束・虐待の研修で施錠についての学習をして理解できている。日中は鍵をかけていない。	◎	◎	◎	法人の全体会議での研修や内部の勉強会で、身体拘束や虐待防止を学び、職員は鍵をかけることの弊害を理解している。入居時に、事業所の施錠の対応を家族に説明し、了承を得ている。日中に玄関の鍵はかけておらず、利用者は自由に出入りすることができる。夜間のみ防犯のために、19時から7時頃まで玄関の施錠をしている。また、玄関にはセンサーチャイムが設置され、職員が利用者や来訪者の出入りを認識しやすくなっている。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	◎	入所時に家族に日中は鍵をかけないことの理解は得ている。				
(4) 健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	◎	ケアプランを共有し把握できている。また、日常生活の中で話し合っている。				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	◎	変化や異常が見られたときは、管理者及び看護師に報告すると共に介護記録に記入している。				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	◎	管理者・看護師・ケアマネに報告し、受診や家族対応も迅速に出来ている。				
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	◎	地域の診療所が協力医になっており、継続的に受診出来ている。また、家族と相談して病院を選択することもある。	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	◎	家族の要望は聞き入れ、なるべく希望の医療機関を受診できるようにしている。				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	◎	異常や変化があった時には、必ず家族に連絡し治療について、医療機関、家族、事業所で話し合っている。				

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	○	家族の同意を得て、情報提供書を作成し、必ず提供している。	/	/	/	事業所には、「重度化した場合における(看取り)指針」があり、入居時のほか、重度化した際に、事業所に対応できることなどを家族に説明している。利用者や家族の希望に応じて、看取り支援を実施している。重度化した場合には、管理者や計画作成担当者、家族、主治医を交えて話し合い、方針を決定するとともに、職員への周知も図られて、チーム体制で支援に取り組んでいる。週2回程度、法人の看護師に利用者の状況等を相談することも可能で、適切な助言をもらうこともできている。また、協力医療機関との医療連携体制も整い、職員は安心して対応することができている。さらに、看取りの支援時には、家族が居室内に宿泊してもらうなどの対応もしている。
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、日頃から病院関係者との情報交換や相談に努めている。	○	治療の具合や退院予定など病院からの連絡を家族と共有して、医師の見解の元、退院支援等が出来ている。	/	/	/	
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	◎	看護職、ケアマネに随時報告相談し必要に応じて協力医に連絡受診が出来ている。	/	/	/	
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	◎	協力医契約を交わしており、いつでも安心して相談できる体制がある。	/	/	/	
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	◎	介護記録を取り、看護職に報告し、主治医を受診して、助言を頂き介護に活かしている。	/	/	/	
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解し、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	◎	処方箋の共有で理解している。	/	/	/	
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	◎	事業所で服薬管理を行い職員で誤薬の内容ダブルチェックしている。	/	/	/	
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	◎	日常の状況を介護記録に記録して、必要に応じて主治医の指示に従っている。	/	/	/	
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	◎	入所時や必要になった時には、本人や家族の意思や要望を随時伺い、主治医に報告している。主治医は事業所を含め家族と共有した方針で対応している。	/	/	/	
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	◎	必要になった場合には家族、主治医、事業所3者がカンファレンスを開催し今後の支援について方針を決めている。	○		◎	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかを見極めを行っている。	◎	職員が安心して看取りケアに当たれるように、支援方針を伝え、具体的なケアの方法を決めている。必要な時には主治医に相談している。	/	/	/	
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	◎	医療行為やケアについて、細かく具体的に出来る事、出来ない事、起こりうる事を話すことが出来、文章にして同意を得ている。	/	/	/	
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	主治医に報告、相談をおこない、主治医、家族、事業所が同じ方針を持つことが出来ている。また、起こりうることを踏まえ主治医に協力して頂けるようにしている。	/	/	/	
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	家族の心情を事業所に気軽に相談出来る様に配慮している。	/	/	/	
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	ミーティングや全体会議で学習している。	/	/	/	
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	○	ミーティングや全体会議で学習している。また、必要な時には手順の確認をおこなっている。	/	/	/	
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れ、随時対応している。	○	保健所より感染症発生動向調査についての報告がある。	/	/	/	
		d	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	○	出勤時、退勤時、1介助1手洗いを実施している。また、来訪者にはアルコール消毒をしてもらっている。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
II. 家族との支え合い									
37	本人とともに支え合う家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	定期的に電話等で連絡を取り関係を築いている。	/	/	/	以前は、春の遠足や夏の夕涼み会、秋の敬老会、冬のクリスマス会などの家族の参加できる行事を開催することができていたが、現在は感染対策もあり、休止状態が続いている。管理者は、「感染状況を見計らいながら、以前のように行事を実施していきたい」と考えていることもあり、今後は、家族間の交流が図られるような行事を再開していくことも期待される。また、利用者の近況を手紙で家族にお知らせするほか、必要に応じて、電話連絡をしている。利用者家族等アンケート結果から、職員の入退職や異動、事業所の出来事などの情報が家族に十分に伝わっていないことも窺えるため、家族の手紙に添えてお知らせをしたり、広報紙の発行を再開したり、家族の来訪した際に周知するなど、周知方法を職員間で検討していくことも期待される。半数程度の家族はよく面会に来られ、来訪時に職員から声をかけ、利用者の近況を伝え、意見や要望を聞くよう努めている。さらに、6か月に1回全ての家族に希望等の聞き取りが行われ、把握した内容は申し送りノートに記載して、職員間で情報を共有している。
		b	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等、家族同士の交流)	○	行事などがある時には電話や手紙で知らせ、参加してもらうようにしている。	○	/	○	
		c	家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的内容を把握して、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	○	家族の来訪時に利用者の近況を報告するとともに、定期的に利用者の近況報告を郵送や電話で報告している。	○	/	○	
		d	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	面会に来て頂いた際には必ず一緒に過ごす時間を持って頂いており、家族に安心して頂けるよう努めている。	/	/	/	
		e	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	○	運営推進会議で報告し、会議内容は全家族に送付している。	△	/	△	
		f	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	○	心身の状況を報告し、家族の要望等を伺い、支援に反映している。	/	/	/	
		g	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行うことで、居心地よく安心して過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	家族の意見や要望を、気軽に話して頂けるように、来訪時には声掛けしている。また、家族の意見や要望等を職員で共有し対応している。	/	/	○	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。(食費、光熱水費、その他の自己負担額、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	◎	その都度説明を行い納得してもらっている。	/	/	/	
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	◎	その都度説明を行い納得してもらっている。	/	/	/	
III. 地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域：事業所が所在する市町の日常生活圏、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	○	運営推進会議で報告し、理解していただいているが、参加者以外にどこまで行き届いているかは不明である。	/	○	/	法人・事業所として、町内会までは加入していないものの、運営推進会議には地区区長や民生委員の参加もあり、地域の情報を得ることができている。以前は、地方祭の際に、牛鬼が事業所に来訪するなど、地域との交流も行われていたが、感染対策もあり、地域住民と交流できる機会は減少をしている。管理者は「今後、地域行事にも可能な範囲で参加していきたい」と考えていることもあり、少しずつ地域との交流が再開されていくことも期待される。また、中学生の職場体験の受け入れを行い、利用者との交流も図られている。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	△	挨拶は行っている。また、地域行事には可能な限り参加する様にしている。	/	△	○	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	△	運営推進会議で働きかけは行っているが、増えているかどうかは分からない。	/	/	/	
		d	地域の人が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	△	日常的に立ち寄り頂く機会はほとんどないが、お祭りや行事には少しだが参加があった。今年はコロナで行事がなかった。	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りもらうなど、日常のおつきあいをしている。	△	利用者の受診やスーパーへの買い物時に声をかけて頂いている。	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	△	運営推進会議やネットワーク会議で、情報を頂き協力を仰いでいるが、具体的な取り組みが出来ていない。	/	/	/	
		g	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得て、安全で豊かな暮らしができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	△	運営推進会議に参加して頂き、施設の運営を理解して頂いている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
40	運営推進会議を活かした取り組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	○	家族や地域の人たちの参加がある。	○	/	○	法人の3つの事業所が、合同で運営推進会議を開催している。会議には、各事業所の立地する地区区長や民生委員、地域住民、町担当者、消防団長、駐在所の警官などの多くの参加を得て開催することができている。感染対策等もあり、利用者は会議に参加しておらず、開催前に利用者に会議の議題等の意見の聞き取りが行われ、会議に反映させていくことも期待される。会議では、事業所の利用状況や行事報告等を行い、参加メンバーと意見交換をしている。また、全ての家族に開催案内を送付するとともに、開始時間を18時からに固定することで、なるべく多くの人が参加できるように工夫をしている。会議録は、事業所内に置かれ、来訪者等がいつでも閲覧できるようになっている。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告するとともに、会議で出された意見や提案等を活かした結果等も報告し、議事録を公表している。	○	報告して、協力を仰いでいる。また、結果についても報告している。	/	○	○	
		c	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	○	定期開催時は決めているが、情勢や天候により、変更しながら行っている。	/	○	/	
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	立ち上げ時の理念を全職員が共有し、日々のケアに活かしている。全体会議時に専務より定期的に理念の話がある。	/	/	/	日頃から、管理者は職員とのこまめなコミュニケーションが図られ、なるべく多くの意見や提案を聞き取るように努めている。職員から出された意見や提案は、必要に応じて、代表者や事務長が出席する運営会議や管理者会の中で、管理者から代表者等に伝え、対応してもらうこともできている。また、法人・事業所として、月2回社内研修や勉強会を実施するとともに、外部研修の参加費用の助成や介護福祉士などの資格取得の支援をするなど、職員のスキルアップにも努めている。さらに、職員の希望に応じて、希望する勤務シフトに対応したり、法人内の別の事業所に異動の対応をしたり、有給休暇の取得を促すなど、働きやすい職場環境づくりにも努めている。加えて、管理者等は職員の体調不良等に目を配り、声かけを行い、相談に応じることもできている。
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	△	資料に添付することもあるが、周知出来ているかは不明。	×	×	/	
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者:基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	外部研修などは難しい事もあるが、会社内の研修は受けられる様に取り組んでいる。	/	/	/	日頃から、管理者は職員とのこまめなコミュニケーションが図られ、なるべく多くの意見や提案を聞き取るように努めている。職員から出された意見や提案は、必要に応じて、代表者や事務長が出席する運営会議や管理者会の中で、管理者から代表者等に伝え、対応してもらうこともできている。また、法人・事業所として、月2回社内研修や勉強会を実施するとともに、外部研修の参加費用の助成や介護福祉士などの資格取得の支援をするなど、職員のスキルアップにも努めている。さらに、職員の希望に応じて、希望する勤務シフトに対応したり、法人内の別の事業所に異動の対応をしたり、有給休暇の取得を促すなど、働きやすい職場環境づくりにも努めている。加えて、管理者等は職員の体調不良等に目を配り、声かけを行い、相談に応じることもできている。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	◎	月に1回の全体会議やミーティング時の研修会で色々なテーマの学習が出来ている。	/	/	/	
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	毎年の賃金の見直しや、資格や役職、年数や評価を考慮した賃金体制となっている。	/	/	/	
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	○	代表者及びその代理人によって、各業種や行政との連携に努めるべく、ネットワーク会議等研修会の参加を心がけている。	/	/	/	
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	管理者からの報告や相談を聴き、役員会で話し合い、改善に努めている。	◎	○	◎	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解したうえで、これらが見過ごされることがないように注意を払い、発見した場合の対応方法や手順についても理解している。	◎	全体会議やミーティングで学習会を開き勉強している。	/	/	◎	研修の中で、虐待や不適切なケアの防止などを学び、職員は理解をしている。家族から、職員の不適切な言動などの報告が寄せられた場合には、早急に法人全体で再発防止に向けた話し合い、迅速に対応するとともに、運営推進会議の中で対応の報告を行うなど、適切な対応に努めている。また、不適切なケアなどを発見した場合には、職員から管理者等に報告し、管理者から代表者に報告する仕組みづくりができており、管理者等から該当職員に確認の上で、指導や注意喚起をしている。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	◎	随時話し合っている。	/	/	/	
		c	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	随時話し合いを行っている。	/	/	/	
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	全体会議やミーティングで学習会を開き勉強している。	/	/	/	研修の中で、虐待や不適切なケアの防止などを学び、職員は理解をしている。家族から、職員の不適切な言動などの報告が寄せられた場合には、早急に法人全体で再発防止に向けた話し合い、迅速に対応するとともに、運営推進会議の中で対応の報告を行うなど、適切な対応に努めている。また、不適切なケアなどを発見した場合には、職員から管理者等に報告し、管理者から代表者に報告する仕組みづくりができており、管理者等から該当職員に確認の上で、指導や注意喚起をしている。
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	全体会議やミーティングで学習し現状の確認を行っている。	/	/	/	
		c	家族等から拘束や施錠の要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	○	その都度話し合いを行い、理解してもらえる様に努めている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを理解したうえで、利用者や家族の現状を踏まえ、パンフレット等の情報提供や相談に乗る等の支援を行っている。	○	現在1名の方が後見制度利用中であり、家族、行政、施設間で十分な相談支援が来ている。	/	/	/	
		b	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	○	社会福祉協議会や地域包括支援センターとの日頃からの関わりが持っており、相談出来る体制にある。	/	/	/	
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	マニュアルを作成しており、職員間で共有している。	/	/	/	
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	○	ミーティングや全体会議で学習している。	/	/	/	
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一步手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	事故報告書やヒヤリハットにまとめ、ミーティングや全体会議を行い、再発防止に努めている。	/	/	/	
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	日常生活の中でのリスク等は随時話し合いを行い事故防止予防に努めている。	/	/	/	
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	マニュアルを作成しており、職員間で共有している。	/	/	/	
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	マニュアルに沿って苦情処理をおこない、必要な時には行政へ報告している。	/	/	/	
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	家族からの苦情や要望を、職員間で共有し、お互い気持ちよく納得のいく支援ができるよう努めている。	/	/	/	
48	運営に関する意見の反映	a	利用者や家族が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	◎	相談窓口を設置しており、随時、相談出来る体制になっている。	○	/	○	日々の生活の中で、職員は利用者から意見や要望を聞き、柔軟に対応をしている。家族からは、面会時や電話連絡時、運営推進会議等を活用して、利用者の様子を伝え、意見や要望を聞くようしている。また、日頃から管理者は、職員とコミュニケーションを図るとともに、日々の業務やミーティング時などに職員から意見や提案を聞き、利用者本位のより良い支援に繋げている。職員の聞き取りから、「管理者は話しやすく、必要なことを相談することができる」などの話を聞くことができた。
		b	契約当初だけでなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	△	契約時の説明以外に、改めて説明する機会は少ない。	/	/	/	
		c	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	○	定期的に事業所に訪れ、職員と話す機会を持っている。全体会議時に役員と意見交換が出来る。	/	/	/	
		d	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	日頃から話し合いを行い、協力機関と相談しながら支援するよう努めている。	/	/	○	
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	△	評価時の自己評価は出来ているが、定期的な取り組みは出来ていない。	/	/	/	外部評価の自己評価は、職員から意見を聞いて管理者と計画作成担当者が取りまとめ、法人の副統括と相談しながら作成をしている。運営推進会議の参加メンバーには、外部評価の家族アンケートを依頼するほか、会議の中でサービスの評価結果を報告し、意見交換をしている。利用者家族等アンケート結果から、サービス評価の取り組みに十分な理解を得られていないことが窺えるため、会議等の中で、サービス評価の意義や目的を説明したり、目標達成の取り組み状況のモニターを呼びかけて、意見をもらったりするなど、理解が得られるような周知方法を職員間で検討していくことを期待したい。
		b	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて、事業所の現状や課題を明らかにするとともに、実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	具体的な目標設定が出来、取り組みが出来ている。	/	/	/	
		c	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	△	運営推進会議にて報告している。	×	△	△	
		d	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	△	運営推進会議にて報告している。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	○	防災計画や避難訓練計画、実践を通し、マニュアルを共有している。	/	/	/	定期的に、同一敷地内にある法人の別事業所と合同で、昼夜等を想定した避難訓練を実施している。また、災害対応のマニュアルを整備し、水や食料などの備蓄品を用意するなど、災害への備えをしている。さらに、法人内で災害時の協力支援体制を整備しているほか、町主催の防災・減災イベントに参加協力をしている。感染対策や事業所の立地上の難しさもあり、地域住民等との合同訓練の実施までは行われていない。今後は、運営推進会議に合わせて避難訓練を実施して災害の備えの話し合いをしたり、地域住民との合同訓練の開催を検討したりするなど、少しずつ災害発生時の地域との協力支援体制を構築していくことも期待される。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	日中、夜間想定で避難訓練が実践できている。	/	/	/	
		c	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	○	非常食の確保方法や賞味期限の確認を随時行っている。また、備品、物品類の点検も随時おこなっている。	/	/	/	
		d	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	△	運営推進会議にて報告している。災害時の話がでて、地域の避難訓練や避難箇所の確認が出来る。また、防災マップの活用も行っている。	△	△	△	
		e	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	△	運営推進会議にて報告している。災害時の話がでて、地域の避難訓練や避難箇所の確認が出来る。また、防災マップの活用も行っている。	/	/	/	
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	○	定期的にネットワーク会議にて事業所の活動の報告が出来ており、地域の活動の参加やボランティアの協力の話も出来ている。	/	/	/	月1回、町行政や医療、保健、福祉関係者で組織する「地域ネットワーク会議」に管理者等が参加し、地域の関係機関との連携が図られている。会議の参加者から認知症等の相談のほか、地域住民から入居等の相談が寄せられた場合には、適切に対応をしている。また、地域の中学生の職場体験の受け入れに協力をしている。今後は、事業所としての地域のケア拠点の取り組みを広報啓発したり、地域の関係機関と協力をしながら、地域活動を実施したりするなど、新たな取り組みを職員間で検討していくことも期待される。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	△	地域包括支援センターや社会福祉協議会から利用の相談があった時には、本人や家族と会い相談業務を行っている。	/	×	△	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	×	特に行っていない。	/	/	/	
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	△	受け入れ態勢は整えているが、事例はない。	/	/	/	
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	○	ネットワーク会議への参加で、町内の各職種の方と話す機会がある。	/	/	○	